

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100610		
法人名	医療法人 浩洋会		
事業所名	グループホーム「ゆりかもめ」	ユニット名	ゆり
所在地	東臼杵郡門川町東栄町4-5-14		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	平成28年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhouyou_detail_2015_022_kanitrue&liexosvoCd=4572100610-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成28年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である田中病院が併設しており、利用者の方の定期受診や緊急時の対応も、ゆりかもめに常駐している看護師と共に連携しながら行っている。介護職の離職率が高い昨今、ゆりかもめにおいては職員の入替わりも少なく、開設当初からの職員と中堅職員、若手職員が協力し、利用者の方の毎日の生活のお手伝いをさせていただいています。その事は、ゆりかもめ理念にも掲げている利用者の方が安心して生活できる空間作り、に一役買っているのではないかと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体が医療機関であり、医療と介護の緊密な連携が図られている。ケアにおける問題点を課題として捉え、院内研修や地域の認知症実践会議の中で研究発表する機会を持つなど、それぞれの職員が高い意識を持って介護に取り組んでいる。利用者一人ひとりの思いやできることをくみ取り、日々の暮らしの中で家事に参加してもらうなど、その人らしさを大切に、個性のある支援に努めている。管理者は開設当初からの職員であり、他の職員からの信頼も厚く、全員で作り上げるホームを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲げ皆で共有し、利用者の方が安心して生活できる空間作りを心がけている。	昨年、管理者の交代があり、開設当初からの理念を見直し、現在のニーズに沿った新たな理念を全員で作りに上げている。利用者一人ひとりの人格を尊重した支援の実践に全員で取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の方との挨拶は、職員も率先して一緒に行き、地区の敬老会の声掛けもしていたり参加している(その地区に住所があり、参加希望される利用者の方のみ)。	地域との付き合いを大切にすることを運営規定にも記しており、地域やホームの行事の時には、互いに参加し交流を深めている。地域の高校から実習生を受け入れたり、ボランティアの来訪も多く、関わりを積極的に持つよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所からの発信はなされていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の方の状況や活動内容、職員の取り組み等を報告。会議で出た意見を聞き、参考にさせてもらっている。	会議には多彩なメンバーが参加しており、それぞれの立場から意見や提案が出されている。メンバーからの紹介で音楽ボランティアの訪問があり、利用者の音楽療法へとつながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡事項等分からない事は聞き、機会あるごとに会話し、協力関係を築くようにしている。	管理者は、分からないことがあれば担当者に連絡し、また、行政からも、介護法の改正などの情報を必ず伝えてもらうなど、良好な関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での身体拘束はないが、今年2月無断離所があり地域の方や警察の方のお世話になり、その後は安全性を考慮し、玄関は施設にて対応している。	法人研修等で拘束についての弊害は理解しているが、利用者の安全優先の考えから、日常的に玄関に鍵をかけている。また、言葉や声かけについては、課題として取り組む姿勢はあるが、全員が理解するまでには至っていない。	利用者一人ひとりの尊厳を守ることの大切さを全職員が理解し、安全を確保しつつ、自由で抑圧感のない暮らしを支援していくための取組を期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束はないが、少し強い口調になったりする場面が見られる時もある為、職員間で気を付けながら声掛けをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の必要な利用者の方はおらず、研修等の参加もしていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い理解していただけるよう努力し、質問については出来る限り納得していただけるよう対応している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所されるご家族の方には、常に声を掛けご意見がある場合にはお聞きし、参考にさせてもらっている。		運営推進会議への参加もあり、来訪時にも意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。ホームからの連絡も細やかに行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務カンファ・ケースカンファ等を、必要に応じ実施し、毎日の申し送りで職員の意見を聞いている。		管理者は、職員の意見を必ず聞くようにしており、何でも言いやすい関係を築いている。また、ケアの中での気づきや提案を「気づきノート」にその都度記入し、活用することで、運営の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働く為には、給与水準を上げてもらうよう希望したい。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合った研修の受講を勧め、報告し実践している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会でのブロック研修に参加したり、他のグループホームの運営推進会議に出席したりし、横のつながりを作るよう努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方の担当を決め、お話があれば傾聴し、不安な事・要望を確認し、関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成の際、担当者会議を開き、本人の希望ご家族の希望も十分に聞き、よりよい関係を築けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度お話を聞き、見極め、支援するよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事は見守りながらしてもらい、職員の手伝いで出来る事は、お手伝いしてもらっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者と本人・ご家族との話し合いを定期的に行い、ご家族と共に支援できている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方が、面会に来やすい雰囲気作りに努めている。その他、本人希望の理・美容室、金融機関等に行けるよう支援している。	家族や知人から情報収集を行い、なじみの関係性を把握している。隣接している母体の病院に知人が来た時には会いに行ったり、なじみのスーパーに買い物に行くなど、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方一人一人に声掛けしており、利用者の方同士楽しく関わり合えるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方からの相談や要望があれば、必要に応じて対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添うように、職員全員で努力している。		直接思いを言う利用者も多く、全職員で共有し、意向にそった支援を心がけている。困難な場合は、家族の協力も得ながら入居前の生活歴や環境等を把握し、勉強会を行い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から聞いた生活歴等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の勤務者交代時に申し送りを行っており、全員現状を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・ご家族を含めモニタリングし、本人の意見や現状を考慮した介護計画を作成している。		カンファレンスは、家族、看護師、担当職員を交え意見を出し合い、利用者の現状を考慮した計画書を作成している。モニタリングは毎月行い、変化に応じた見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や職員間の意見を参考にして、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に、対応するよう努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の民生委員の方、ボランティア等と協力しながら、支援を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である田中病院と協力し、支援を行っている。	ほとんどの利用者が、法人の母体である病院をかかりつけ医としている。2週間に一度の定期受診は職員が対応しているが、家族にもその都度状況を伝え、関係者での情報の共有がなされている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ゆりかもめ常勤の看護師と協力し、支援を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の病院と隣接しており、受診時・緊急時等の対応を行っている。また日頃から病院関係者との関係作りにも努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期に向けた支援の方向性をご家族の方と話し合い、ゆりかもめにおいて出来る事を説明し、一緒に考えている。	入居時の説明の中で、重度化した場合にホームでできることの話合いをしている。状態の変化に応じて関係者で話し合いを持っているが、まずは利用者、家族の意向を重視し、全員で方針を共有するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院職員と一緒にAEDの研修や救急救命の研修に参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防からの指導を受けている。経営母体の病院職員の寮や社宅が近くにあり、非常時の協力体制は出来ている。	年に2回防災訓練を実施し、連絡網を整備している。利用者を実際に避難場所まで移動する訓練や夜間を想定した訓練も実施している。法人母体である病院が地域の避難場所となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に応じて対応し、トイレの声掛け等は出来るだけそばに行き、プライバシー保護に努めている。	排せつ時には、さりげなくプライバシーに配慮した言葉かけをしている。不適切な言動があった場合は、管理者を中心に話し合い、改善に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際の調味料の選択や、おやつ時の飲み物等を聞いたり、入浴の有無等、選択の決定が出来るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿って支援しているが、外出支援に関しては、職員の人数によっては難しい時がある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力のもと、行きつけの美容室に行かれたり、随分近くの理容所に来てもらい散髪をしてもらったり、利用者の方の洋服購入の際には、一緒に買い物に行く支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の誕生会の際には、好みを聞いて提供したり、食事の準備では野菜の皮むきや笹がき、台拭き、配膳、食器洗い等を積極的にしていただいている。	職員は利用者のできること、やりたいことを手伝ってもらい、野菜の下ごしらえや後片付け、食器洗いなどを一緒に行っている。食事の時間は、利用者の残存機能を引き出す場にもなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて食べる量を提供。水分量は1000CC/1日を確保できるよう、利用者の方のペースに合わせて、ゆっくりでも摂ってもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守りを行い、介助が必要な利用者の方は、付き添い介助している。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファを定期的に行い、一人一人に合った排泄法やオムツの種類を検討しながら、排泄チェック表の記録を確認し、必要があれば声掛け誘導している。	排泄の失敗で自室に引きこもる利用者の支援として、排泄パターンやサインを全職員で共有し、声掛け、誘導を行うことで失敗も減り、利用者の不安を軽減するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に基づいて、専属の看護師に相談し対応している。食事も、野菜を多めに提供したり牛乳を勧めたりしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けにて希望を聞き優先するが、入浴拒否が多い方は、その都度状況を見ながら利用者の方の意に添うよう配慮している。	1日おきの入浴となっているが、希望があればいつでも入浴できる体制を整えている。入浴を拒む利用者に対しては、時間を変更したり、言葉かけを工夫するなど、利用者が納得して入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調節には気を配り、寝具の清潔保持や整理を行い支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が常駐しており、薬の管理を行っている。服薬時は、薬袋に記載してある利用者の方の名前・日付を確認し、誤薬防止に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人好み異なる為、その方にあった支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、利用者の方のレベル低下に伴い、車椅子対応の方が多くなり、以前ほどの外出支援が行えない状態にある。	利用者の重度化が進み、遠出は難しくなっている。個々の状態を見ながら、近くの公園を散歩したり、ホームの庭のベンチに集い、皆で歌を歌うなど、戸外に出ることを積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理のできる方のみ、ご家族の了解の下あまり多くない金額を渡してある。その他、宝くじや菓子など希望に応じ、一緒に買い物に行く。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方の希望に応じ対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の飾りや絵、写真等で季節感を取り入れている。		共用空間に、利用者と職員の製作品や季節の花、イベント時や家族との写真などを飾り、和やかな雰囲気となるよう工夫している。4か所あるトイレも、車いすの利用者、一人で行ける利用者、それぞれに使い心地が良いよう工夫がなされている。利用者に合わせた空調の調整もこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方との席作りや玄関やゆりかもめ前にベンチを置き、外気浴が出来るスペースを設けている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や家族の写真等を貼り、安心感を持ってもらうよう工夫している。		居室入口に手作りの表札を掛けている。ベッド、たんす、テレビなど、本人が使っていたものや植物のプランター、縫物をするための裁縫箱を持ち込んでもらうなど、趣味や特技を生かす工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場、利用者の方の居室のネームプレート等、一目でわかるよう表示している。			